

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：中央第二自治会

開催場所：扇町公会堂

開催日時：平成 29 年 3 月 13 日（月）19 時 00 分～20 時 42 分

参加者：自治会側【地域住民の方 29 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、静賀協働推進課係長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長、鈴木協働推進課主査】

内 容

① 安原自治会長あいさつ

- ・年度末のお忙しい中、中央第二自治会へお越しいただき、ありがたい。
- ・市長との車座トークについて、何とか年度内に開催することができ、大勢の皆さんに集まっていただくことができた。市長との意見交換をお願いしたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・本日は全 68 自治会のうち 66 回目の車座トークになる。
- ・本日、午後、静岡市に行ってきた。広域消防（静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町）になって、1 年が経過し、メリットは何かということいろいろ話が出たが、第一に通報から現場に駆けつける時間が短くなった。例えば、初倉の消防署は南の方（牧之原や吉田方面）へ出ることが多くなった。川根本町へもドクターヘリや消防のヘリが静岡からまっすぐ飛んでいくようになり、山間部の人達の安全も確保されるようになった。
- ・特殊部隊による専門性の部隊の編成が組めるようになった。
- ・何より、火災が多発した際の安心・安全ということを考えると、消防の広域化はやってよかったと思う。
- ・昨年、初倉で 2 件の火災が発生した時には、各所からの消防車が現場に駆けつけ、消防署がカラになった場合には静岡から待機部隊が来た。30 分で来れたということが実践の中でわかった。
- ・広域消防のあと、リニア中央新幹線によって水が無くなってしまうということの危機感を訴えに、JR 東海に行った。4 月までに覚書を締結してもらえなければ、手段を講じるといった話をしてきた。このままだと、平成 29 年度中には、静岡の奥の方で工事が始まりそうな気配である。掛川から焼津までの、11 の市町が大井川の水に頼っているのです、この大井川の水をしっかり守っていくということを JR に訴え、また知事のところに行って、とにかくよろしく頼むということをしてきた。

- ・このように、行政も広域で動くようになってきた。周辺市町や県との連携というのが、この島田にとっても大きな力になると思っている。

■市民会館の跡地利用について

- ・市民会館は築50年で、ランクⅢという耐震性のない建物であったため、使用を中止し取り壊しをした。
- ・市民会館跡地を駐車場に整備したことに対し、市民の皆様から、もう何も造らない気かといった声も聞こえてきたが、アスファルトは、一番薄い簡易なものを敷いている。市役所、市民会館、プラザおおりをどうして行くか、いかに市民会館の機能を再生できるかということを検討していかなければならない。
- ・市役所は築54年、コンクリートの寿命が60年といわれているなかで、そろそろ考えなければならない。市役所の裏にある書庫も耐震性が無い。プラザおおりは築35年になる。こちらも長寿命化すればまだ20年～30年使えると思うが新しくない。北側には駐車場や中央小公園があり、全体で34,000㎡ある。
- ・こうした土地を今後どうしていくのかを検討するため、市役所周辺整備検討委員会を1月に立ち上げ、かなりの頻度で会議を続けている。市役所と市民会館の複合施設にするのか、市民会館の機能だけを建て直すのか、様々なことを検討している。
- ・合併特例債は平成32年までしか使えない。平成32年までに建物が完成するなら、7割が特別交付税措置される。しかし、平成32年を過ぎると、別の補助金や交付金を考えなければならない。いつ建てるのかということは、財源をどこから持ってくるかと併せて考えていかないとならない。
- ・行政だけで建てるという考え方だけでなく、PPPやPFIと言われているが、例えば、下層に市役所、上層がマンションといったように、民間会社に建物を建ててもらい、財源を確保するやり方もある。
- ・今後、あらゆる手法を検討し、このまちにとって一番良い選択をしたいというのが、市民会館跡地について考えていること。
- ・あの土地を売って郊外に建てたらいいという意見を言う人もいるが、せいぜい150人くらいの住民が増えるだけだと思う。
- ・基本は現在の場所で市役所、市民会館等を建てることを考えていく。

■市民病院建設について

- ・この3月に基本設計がまとまって、皆様にお示しできると思う。
- ・病床数は445床。診療科目は今とほぼ同じ。
- ・地上7階建の建物。屋上にはヘリポートがあり、救急医療に対応する。病床数は445床を計画している。
- ・1～2階が外来と検査、3階から上は手術室や入院の病棟になる。ナースステーションも低いカウンターでオープンな空間となる。
- ・総事業費は今のところ240億円でそのうち40～50億円は医療機器分。
- ・平成32年度末に開院予定。平成29年度は基本設計から詳細設計に入っていく。平成30年度から工事着工予定。

- ・周辺の道路については、県道に右折レーンを整備し、周辺の水路についても整備をしていく。
- ・新しい病院ができて、医療機器がどんなに素晴らしくとも、医者が揃わなかったらどうしようもない。京都大学からは、「島田に医師を派遣することが難しい」と言われている。昔は、医局制度で教授が研修医の行き先を決めていた。今、研修医は自分で行きたい病院を探すため、大都市圏に医師が集中しているのが現状。
- ・島田は浜松医大との連携を深めている。就任以来、定期的に浜松医大に通い、院長や学長に会い、浜松医大から安定的に医師を派遣していただける体制をつくるよう努力している。
- ・今も、浜松医大からの副院長がいるが、4月にはもう一人浜松医大から副院長が就任する。若手の麻酔医や、外科医も来る。これからも浜松医大と連携を深め、安心できる体制をつくっていきたい。

■空き家対策等について

- ・街中に空き家が増えてきており、これから益々空き家の問題が大きくなっていく。
- ・平成29年度は、空き家を買って住んでいただく方にリフォーム費用を補助していく予定。
- ・こういった補助を活用いただき、若い人たちがこの街中に住むことによって中心市街地が活性化できると思う。
- ・市内の木造住宅で、耐震性の無い建物が約7,000棟ある。家が密集しているところは、地震の揺れも怖い、その後の火災がもっと怖い。
- ・こういった住宅について耐震化していただきたいということで、耐震化に対する補助として、高齢者世帯には95万円、一般の世帯は75万円を補助している。ぜひこの補助金を使ってもらい、安心して住んでもらいたい。
- ・補助金をもらっても耐震化は（金銭的に）難しいという方には、耐震ベットや耐震シェルターの整備経費を補助していく。おおりり1階の西側に実物を展示しているので御覧いただきたい。

■蓬萊橋周辺整備について

- ・蓬萊橋周辺には観光客が12～13万人も来ているが、何も稼ぐところが無いと言われていた。今までは、国土交通省の許可をいただけないのが現実だった。
- ・しかし、国土交通省も規制緩和の中、かわまちづくりミズベリング協議会をつくり計画を立てれば許可が可能ということになり、今年の秋には、蓬萊橋番小屋周辺にお休み処、物品販売所、トイレを整備したいと思っている。
- ・蓬萊橋のところには、細い水道管が1本しか通っていないため、現状のトイレは、お客さんがたくさん来ると、トイレが詰まって水が流れない。これを解消するための工事が大変ではあるが、安心してトイレを使っただけのように改修していきたい。
- ・今年1年で終了する話ではなく、花壇、散策路や駐車場等も整備しながら、蓬萊橋周辺を観光の拠点にしたいと思う。かわまちづくりミズベリングは、

蓬莱橋から博物館までの間を指定したので、その間で様々な事業を実施していく。いずれは蓬莱橋右岸側にも何らかの誘客のための整備をしたいと思っている。

■中央第二自治会の人口、世帯等について

- ・中央第二自治会の平成29年2月28日現在の世帯数は199世帯、人口は459人で、高齢者人口（65歳以上）は177人、高齢化率は38.6%となっている。市の平均が29.7%なので、9ポイント程度高齢者が多いが、昔からの町内は同じような傾向にある。15歳以下の人口は32人で、人口に占める割合は7.0%となっている。市の平均は13.7%。平均の半分くらいになっている。こうした現状を見据えたまちづくりに取り組んでいかななくてはならない。
- ・地域活動が活発な地域は、1人あたりの介護保険料や国保保険料が低い。山間地も比較的低いですが、第1、2、3小学校区は比較的保険料が高くなっている傾向がある。
- ・おおりではシニアサポーター養成講座を開催しているので、ご利用いただいたり、皆様が集える場所をつくっていったり、そんなまちづくりをしっかりとやっていかなければならないと思っている。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・協働のまちづくりについては、皆さんの御意見を伺いながら進めるもので、大変に難しい。
- ・たとえば、扇町公園の大きな銀杏の木について、切ってほしいという意見もあれば、地域のシンボルだから切らないでほしいという御意見もある。合意形成は大変難しい。
- ・駅南の通りの街路樹は、強剪定により、冬の間は鉛筆のようにになっている。この街路樹の方向性について、地域の皆さんに話し合ってもらって、その方向性を出してもらうように地元に投げかけた。
- ・協働のまちづくりが必要な理由は、2040年には人口が8万人になってしまうといった予測がある中で、今は6割強の人達が働き、税金を納めていただいている。しかし、2040年には人口が8万人になるだけでなく、働いて税金を納めていただける人が半分になってしまう。今でも、医療・介護・福祉にかかるお金は毎年増え続けている。こうした経費を市は負担しなければならないが、そうすると、以前のように「あったらいいな。」と市にお願いしていればいい時代ではなくなった。
- ・賢く、選択と集中を重ねていかないと、若い人たちに選んでもらえる街にはならない。
- ・市の借金については、初の300億円台にすることができた。基金も125億円まで積み立てている。これは、今後使わなければならない大きな事業が控えているからである。（病院、市役所、市民会館、小中学校など）
- ・昔は、働く世代がいて税収も上がっていくことが予想されたため、将来の人に負担してもらえば良いという考えで、色々な物を造ることができた。しかし、税収が少なくなる見通しの中で、何でも造っていけば自分の子孫に負担や借金ばかりが残ってしまう。高度成長期には色々な物ができた。島田市も昭

和58年にはプラザおおりに加え、小学校6校を造ったといったような景気の良い年があった。

・約15年前と比較すると、国土交通省が自治体に出す道路関係の予算が16兆円を超えていたが、ここ数年は約5兆円といった状況となっている。国の予算が3分の1となり、県の予算も3分の1になった。昔は新しいものを造ってあげればよかったが、笠子トンネル事故後、インフラの寿命について厳しく言われる時代になり、5年に一度、道路や橋を点検する法律ができた。

・島田市は市道1,180km、1,152橋を管理している。5年に一度点検する必要となるなど、道路の予算は、今までは新しいものを造ってあげればよかったが、長寿命化や維持管理にお金が必要となるようになった。

・昨年も、島田市が道路関係のインフラ整備で国に要求した額（社会資本整備総合交付金）の52%しか予算が付かなかった。現在実施している事業は継続しなければならないため、お金が足りないと今年着工しようと思っていたところを、来年再来年と後回しにする時代になった。

・地方創生という言葉も、3年前に消滅可能性都市というショッキングなレポートが発表されて、1,700ある自治体のうちの896の自治体が2040年には消滅して無いのではないかといわれたことをきっかけに、全国的に取り組むようになった。静岡県は35市町のうち11市町が消滅するのではないかといわれた。

・島田市は住みやすい街。地域を良くしようと考えてくれている皆さんが多く住んでいる。

・行政もいろいろな施策を一生懸命やっていくが、皆様と一緒にこのまちの安全・安心、そしてもっと若い人達に住んでもらえるようなまちをつくらなければと思っています。

・そういった中でお願いしているのは、地域の課題を地域のやり方で解決していただきたい。

・こうした取り組みの事例として、道悦島では、道悦島応援隊と言って、高齢者が1時間利用券500円、ゴミ出し1回150円のサービス券を使って、地域の方にお手伝いしていただいたときに券を渡す仕組みを実施している。

・また、地域の防災体制を整備するため、災害ボランティアの登録を募り、登録者の職業に応じた専門性を有事の際に生かせる仕組みを考えた地域もある。

・湯日小では一番近い放課後児童クラブ（初倉南小）まで地域の方がローテーションを組んで送ってくれている。市は、ガソリン代と車をお借りするためのお金を地域にお渡ししている。

・北部地域では、コミバスが十分ではなく、高齢者が多くなって地域の足が無いといったことに対し、ワゴン車、ガソリン、保険、人件費を市が負担するので、地域内で地域の使い勝手が良いように車を出してくださいと言った相談をしているところがある。

・中央第二自治会でそういった動きが出てきたら相談頂きたい。

・まちづくり支援事業交付金については、6年間継続して補助できるような支援もはじめています。

・様々なメニューを用意しながら、地域とともに作るまちづくりをすすめていきたい。

・情報をしっかり出すということ、そして問題を隠さず皆様にしっかりお伝えするということが、その中で話し合いをしながらどうしたらいいかということ

を決めていかなければならない。

- ・先日の議会で、市長はどのようなまちをつくりたいのかという話になった。今は、ここに住み続けたいまち、訪れたいまちにしていきたい。
- ・産業支援センターを昨年立ち上げたが、以降、島田市では23件の新しい企業が立ち上がった。相談件数も2,000件を超えている。様々なご相談をいただき、国、県、市の補助金を使っていただきながら中小企業の支援をしていきたい。

■基本姿勢について

4つの基本姿勢を念頭においてきた。

- ・1つ目は、公平・公正で市民の声が届くまちをつくること。
- ・2つ目は、情報の開示。
- ・3つ目は、広域で行政を推進していく。島田だけではなかなか生き残れない状況の中、他市や県との連携が大事である。
- ・4つ目は、財政の健全化。
- ・これらのことを常に心掛けながら市政運営を行ってきた。いっぱい種を蒔いてきたが、まだ芽が出ず、これからというものもある。
- ・さらに心掛けてきたことは、島田はひとつであり、対立軸を生まないことを心掛けてきた。島田市が一つになって課題解決に取り組んでいく必要がある。
- ・もう一つは人材育成。人こそ宝、人こそ命。何をやるのでも、そこにどんな人がいるのかということ。
- ・島田は、島田でしかできないことを、島田に居る人たちがやっていけばいい。
- ・もう一つは市役所改革。市役所は究極のサービス業だと思う。市民の皆様の顔が見える仕事をしなければならない。それでも、毎日のように苦情をいただいている。
- ・また、自分たちは一生懸命やっていて発信しているつもりでも、市民の皆様に届いていないことが多々ある。それをわかってもらえるまで届けなかったら意味が無い。それがしっかり届くようにやっていかなければならないと思っている。

■島田について

- ・皆様は、島田はどんなまちかと聞かれて、どんなことを自慢できると思うか。
- ・島田大祭、鬘まつり、蓬莱橋、SL、緑茶のまち、川越遺跡、JR 駅が3箇所、私鉄の駅が10箇所、静岡方面への島田発の電車が午前中に19本ある。
- ・軽犯罪が少ない。
- ・県内で一番離婚率が低い。
- ・持ち家率が高い。(県内2位)

- ・女性が全国で始めて参政権を行使したまち。(明治9年、横岡)
- ・室町時代から江戸末期まで400年もの間、名立たる武将の名刀をつくる刀鍛冶が住んでいたまち。刀剣のまち島田である。
- ・再生可能エネルギー率(発電量)が、29年度末には37~38%となる。これは、全国的に見ても再生可能エネルギー先進都市である。(新東海製紙のバイオマスも含む。)
- ・クールチョイス宣言を予定しているが、こういった環境行政の先進都市になっていくまちである。
- ・無いものをねだるのではなく、今もっているものに磨きをかけていくことが大事な施策である。文化力も同じこと。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■しまだ楽習センターについて</p> <p>・楽習センターについて、来年の2~3月には経営が変わると聞いているがどうなのか。</p>	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのようなことは何も決まっていない。あそこは木材会館で、建物を借りて様々な生涯学習の講座等を行っている。 ・歩歩路では、平成29年度からは、市民活動団体が使用できる部屋を3室設ける予定。 ・ぴ〜ファイブの1階の約半分を使って音楽の練習ができるスペースを整備する事を計画している。(今議会の議決が必要だが。) ・金谷宿大学は、金谷以外の地域でも実施している。生涯学習のあり方は工夫させていただきながら、学ぶことや、教えることの楽しさを皆さんに味わっていただきたい。 ・生涯学習に関する事業については、今後どうあるべきかということについて、皆さんの御意見を伺いながら今後も工夫していきたい。
2	<p>■島田大祭の無形文化財への指定の検討について</p> <p>・大祭りについて、日之出町、本通二丁目、扇町の3町で一緒にやっている。高齢化に伴い、年金生活の中での費用負担は厳しい状況。市から補助もいただいているが、今までの質を維持するためには、町内の負担もかなり厳しい状況となっている。長唄については、東京から一流の方に来ていただいているが、その質を下げないとやっていけないようなと</p>	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田大祭は300年以上続いてきたお祭りである中で、続けなければいけないことや、時代とともに変えていかなくてはならないことの葛藤がある中で島田市は大祭に対して約2,600万円の補助を出している。 ・かつては名家といわれるスポンサーが町内ごとにいたが、今はそういう方たちがいなくなり、商店街も昔ほど賑わいが無くなっていき、祭講のお金も大変になってきた。若い人たちが居なくなってきて、人的にも大変に

	<p>ころに差し掛かっている。300年以上続くこの伝統あるお祭りの質を下げないように実施したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市も財政が厳しい中ではあるが、例えば大祭りを文化財として指定できないか検討していただきたい。 ・無形文化財としてお祭り自体を指定している事例が全国でもある。また、お祭りの中の一部を指定しているところもある。最近では、岡山の裸祭りも無形文化財の指定の事例の一つである。 ・無形文化財の指定については、県の教育委員会に市の担当者が相談をして進めていってほしい。文化財指定となると、資料もかなり必要となってくると思うが、市にはかなりの資料が既にあると思うので、そういった形で、県からも補助金がもらえる仕組みを構築していただくよう市の方で検討していただきたい。 	<p>なってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の無形文化財への指定については、市は資料についてはたくさん持っているの、県へ提出するための資料についてのお手伝いはできると思う。 ・県の無形文化財に指定されたとしても、お道具等に対する維持管理の補助はあるかもしれないが、お祭り自体に対しての補助は出るかどうかはわからない。 ・文化財指定になると、やりにくくなることもある。川越街道の番小屋は文化庁の指定を受けているが、何かを造るにしても、当時無かったものは新たに造ることさえできない。文化財の指定を受けたことが、逆に観光としての利用方法について難しくなることもある。 ・無形文化財への指定については、指定によるメリット・デメリットを考えていただいた上で、市としてお手伝いできることはさせていただきたい。
<p>3</p>	<p>■待機児童について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童について、県内の中でも島田市の待機児童の数が多という報道を見た。保育園等の待機児童の現状及び対策について聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●待機児童は月によっても日によっても変わってくるので正しい数字ではないかもしれないが、現状で27人程度と把握している。 ・現在、待機児童ゼロを実現することを最優先の事業としている。 ・今年10月には、向谷に0、1、2歳児用の保育所（70人定員）を整備する。若松町にも12人ほどの保育所ができる。 ・来年の春には、附属幼稚園他について、認定こども園となる予定。 ・3歳児以上に待機児童はいない。 ・0、1、2歳児は子ども3人に対して保育師が一人必要だが、保育師不足という状況でもあったが、平成30年度には待機児童ゼロを目指して対策を講じている。 ・放課後児童クラブについても待機児童がいる状況。 ・現在、希望者は6年生まで放課後児童クラブで見えるようになり、働く母親も増え、予想以上に希望する方が増えている。 ・平成29年4月からは、すべての放課後児童クラブで18時30分まで（一部19時00分まで）預かるようして、働く母親をサポートしていきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・島田では、1人目の子どもを産んでいる人は、ほとんどが2人以上の子どもを産んでいる。これは、子育てしやすいまちだと言える。 ・また、子育て世代については、わずかではあるが転入超過となっている。これは子育て世代に選ばれるまちになっている。 ・ICTで人を呼び込むということで、六合地区と初倉地区をモデル地区として、タブレットを使った授業を行うなど、特色ある教育を行っていき、子育て世代をこのまちに呼び込んでいきたい。
<p>4</p>	<p>■中心市街地の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前商店街が非常に寂しい。子育て世代の人たちが来てくれるようなイベントを実施して欲しい。 ・夏祭りなどをみても多くの人が集まる場所を見ると、決して人との交流を拒んでいるわけではないと思うので、例えば駅前通りを歩行者天国にして、子供たちがダンスをしたり、大きな絵画を描くなど、大胆なイベントを実施し、それによっておびりあを利用してもらったり、ついでにバラの丘まで回遊してもらおうようなイベントを実施していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日之出町にあるサンカク公園について、サンカク公園プロジェクトを民間の人たちが立ち上げて、イベントを行う予定などがあるので楽しみにしている。 ・これまでおび通りは、島田市道であるがために、何かイベントをやるにしても届出が大変だったが、島田市道のまま公園としての二重指定をし、イベントを実施しやすくした。 ・今、おび通りにおいてざわざわ市をはじめたが、これは、おび通りをにぎわいの場として、回遊性を持たせた取り組みにつなげていければいいと考えている。 ・市民会館の跡地にある帯桜のところも、サンカク公園プロジェクトと同じように市民の皆様に活用していただきたいと思っている。 ・そういった場所を増やしていくことで、まち中に人が回っていけばと思っていて、まちの中が遊びに来てくれる場所になるような仕掛けをしていけたらと思う。
<p>5</p>	<p>■オリンピックの合宿誘致について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックのモンゴルの合宿誘致はよかった。どのようなきっかけで誘致につながったのか。素晴らしいことだから、市民にPRしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成23年頃から、モンゴルのナラン外国語学校の生徒が毎年島田に来て市民との交流を深めてきた。(マラソン大会や産業祭にも参加いただいている。) ・静岡県はモンゴルとの関係が強く、静岡県知事は、モンゴルの事前合宿はぜひ静岡県へ誘致したいという話があった。 ・そうした中、ナラン外国語学校とのご縁もあり、教育文化スポーツ大臣

		<p>が焼津を訪れたついでに島田市を訪れ、ローズアリーナを見ていただいた後、市役所へ表敬訪問いただいた際に、ぜひ島田での事前合宿をとをお願いをしたら、今すぐにでも調印してもいいとのお答えをいただき、トントン拍子で話が進んだ。</p>
<p>5-1</p>	<p>■オリンピックの合宿誘致について ・事前合宿の種目がなぜボクシングなのか。</p>	<p>●・モンゴルはボクシングが強い。北京が金メダル、リオデジャネイロでは銅メダルだった。入賞する選手が何人もいる。 ・事前合宿の約束をしても、その国のその競技がオリンピックに出られなかったら、事前合宿は無しになってしまう。モンゴルのボクシングは必ずオリンピックに出るくらい強い。そういったモンゴルの代表的な競技ということで、ボクシングを誘致した。 ・一方で、シンガポールの卓球も誘致を進めている。6月のジャパンオープンにあわせて島田市を訪れるということなので、ぜひ、シンガポールの卓球も誘致をしたいと思っている。 ・合宿誘致に成功し、国にホストタウンとして認められると、例えば、ローズアリーナへの空調設備の整備や、外国語のサインの整備などに対し、国からの支援がある。 ・現在、静岡県の合宿誘致件数は、全国で一番多い。</p>
<p>6</p>	<p>■浜松医大との連携について ・浜松医大との連携は良い状況のようだが、浜松医大出身の医者が市民病院に何人くらいいるか。 ・浜松医大主催の健康講座に通っているが、内容が素晴らしい。島田市においても、健康講座をぜひ開催してほしい。</p>	<p>●・浜松医大出身の医師について、記憶が違わなければ、16～18人の医師がいるのではないかと。既に副院長が浜松医大から来ている。4月からは副院長ポストの外科医が来る。その他、1月には、藤枝市立総合病院の副院長だった麻酔科医が若手の医師とともに島田に移ってきてくれた。 ・浜松医大との連携については、4年間通い続けた成果が表れてきていると思う。 ・浜松医大の先生が増えてきているので、健康講座の件については、次回、学長とお会いする時にお話してみる。</p>

<p>7</p>	<p>■扇町公園の銀杏の木について</p> <p>・銀杏の木の件について、過去に枝葉を切っている途中で切るのを辞めさせたそうだが、そのあと鳥の糞で非常に困っている人がいる。</p>	<p>●・銀杏の木については、シンボルである木を、なぜ強い剪定をするのかといった苦情が寄せられ、一時期剪定をやめたことがあるのは事実。</p> <p>・しかし、その後、銀杏の木に集まる鳥の鳴き声や糞に対する苦情もいただいている。</p> <p>・どちらの意見もあり、どうしたら良いのかわからない状況である。</p> <p>・島田駅周辺には、かつて銀杏の並木があったが、今は駅前の交番の前に一本あるのみ。しかも、鳥が集まらないようにネットを被せてある。</p> <p>・街路樹の剪定に対しては、落ち葉がすごいからとにかく早く切ってくれといったご意見と、街路樹は市民の文化力を表すものであり、そんなに強い選定をするのは何事だといったご意見もある。</p> <p>・リッチモンドは、山の木1本でさえ、市民が水をやらなければすべて枯れてしまうようなところ。芝生をつくるには、地下に水道管を埋めて水をやらないとまらない。そういうまちにあっては、どんなに落ち葉がたくさんあっても、誰も文句は言わない。緑に対して、特別な思いを持っている。</p> <p>・私達にとって、緑は当たり前のものであるから、いろいろな思いやご意見があると思うが、両方とも正しいし、両方とも当然の意見だと思う。</p> <p>・銀杏の木については、ネットを掛けるのか、強剪定をするのか、難しい判断だと思うが、みなさんの御意見を聞かせていただきたい。</p>
<p>8</p>	<p>■リバースモーゲージについて</p> <p>・家の近くの一人暮らしの高齢者の方が認知症となり施設へ入所したが、月15万円～20万円くらい掛かるので、年金ではとても賄えないようだ。</p> <p>・土地や建物を担保にして融資してもらおうといった、リバースモーゲージを利用すれば、貯金を切り崩さなくて済むと思うが。</p>	<p>●・自宅を担保に老後の資金を調達する手法がリバースモーゲージ。</p> <p>・こういった制度を利用する方は増えてきている。</p> <p>・資産の相続はそのまま放っておくと、相続人が増えたり変わったりして、名義の書き換えだけでも非常に大変になってしまう。</p> <p>・空き家が増えてきている原因の一つは、このまちに子どもが住んでいないため、放っておくということがある。</p> <p>・ひとり暮らしや、年金暮らしの高齢者が増えてきていることは現実である。</p> <p>・皆さんに健康で長生きしていただきたいので、行政でできることや地域</p>

		<p>でできることを合わせながらサポートしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守りが必要な時代になってきた。地域包括支援センターで相談業務を行なっているので御相談いただきたい。 ・リバースモーゲージの課題は、土地建物の資産価値がどんどん下がっていくという時代になり、お金がどれだけ借りられるかが課題であると思う。
--	--	--

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

